

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (九州)	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・衣料品の販売が上向いている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・競合店3店の売上見通しを見ると、どの店も3か月前の6月よりも、やや良い状況である。全店共に3か月連続して入店客数が前年実績を上回っている。本店の客単価は非食品が97.5%、食品が105.4%となっている。特に食品では、5,000円以上購入するとプラス1,000円分が無料になるというキャンペーンが好評で、売上が前年比138%となった。衣料品は前年比101.5%、食料品が前年比119%で、食品がけん引した。家庭用品は前年比93%である。インバウンドについては前年比209%と、相変わらず良い。
		スーパー（店長）	単価の動き	・生鮮食品の精肉や青果の相場高が客単価を押し上げている。食料品の売上は、すこぶる好調に推移している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・値上げが売上の増加に寄与している。生鮮品を除けば販売量の増加が顕著である。その生鮮品も相場高で売上は堅調である。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・現在、売上高も利益も前年比プラスで推移しており、上半期全体でもみても順調である。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・食パン、菓子パン、和菓子、洋菓子、デリカのトータルの販売量で3か月前と比べて4%の伸び、前月の8月と比べても1.5%の伸びである。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・8月末に店舗をリニューアルした結果、従来動いていなかったヤングミセス層においても若干の動きがみられるようになった。提案さえきちんとできれば、ある程度の反応は出てくるようだ。
		衣料品専門店（チーフ）	単価の動き	・消費税増税から時間も経ち、秋冬になったため客の購買意欲が徐々に上がってきた。単価も来店者数も高い水準で推移している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休もあり、前年や前月と比べても来客数が増えた。客単価も悪くなかったため、景気は上向きである。
		スナック（経営者）	それ以外	・近隣の同業者の売上が、9月は良好に推移していると聞いた。常連からは、夏のボーナスが増えた話を良く聞く。
		居酒屋（経営者）	来客数の動き	・郷土料理などを扱っている店舗は、県外からの客が増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・9月の大型連休もあり、宿泊・レストランともに盛況で、売上が前年比で大幅にアップした。逆に宴会は、企業が休みの日が多く、前年より少なかった。
		都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・宴会利用の客は増えている。婚礼の件数は相変わらず減っているが、宿泊とレストラン利用の客は増えている。単価はあまり上がっていないが、良い傾向である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・9月の大型連休の効果で、国内・海外共に前年を大きく上回った。特に国内の近場への旅行は、好天の影響もあり、直近の予約が多かった。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・観光関連の事業者から、観光客向けWi-Fiの設置に関する要望が増えている。海外からの観光客が増えたことが原因だ。
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・今年度に入った当初は厳しい状況で動いていたが、ここにきて上期は予定通り、若干上向きの販売量を確認することができた。3か月前からみると売上は伸びている。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・客は消費しようという気持ちはあるが、なかなか購買までには至らない。単価が低いものでさえ慎重に買物する傾向があり、非常に厳しい状況である。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・天候不順で来客数が伸び悩んでいるが、客単価は増加している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順で野菜や魚などの価格が高騰している。9月の大型連休の前後は、客の様子がかなりシビアになり、売上が停滞している。

一般小売店〔鮮魚〕(店員)	それ以外	・今年は台風など天気の影響で漁の回数が少なく魚も少ないが、魚価もあまり上がっていない。これで商売になっているのが不思議だが、元々の売上が減っているので慣れているのかもしれない。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・催事が多く、全店、催事場がにぎわった。特に女性社員が企画した催事は、従来の客層と違って、若い女性の平日と夕方の来場が目立った。また、物産催事で発行したふるさと割お買物券が好評で、購入した客のほとんどが、使用期間中に券を利用した。店頭では、貴金属や婦人雑貨、紳士雑貨、紳士衣料は、回復の兆しがみられるが、婦人衣料の購買は伸びない。
百貨店(営業担当)	お客様の様子	・今月は気温が前年に比べて低めに推移したこともあり、秋物衣料も出足は好調に推移した。また、地元の球団がリーグ優勝したので、その優勝セールの効果が出て、前年に比べて売上が大幅な増となった。ただ、景気そのものが良くなって押し上げたわけではない。客単価が下がっており、高額品の動きもやや鈍ってきている。
百貨店(営業統括)	単価の動き	・9月に入り気候・気温も安定してきて、婦人客の来店頻度が高まってきている。ただし、単価が上がりず売上増にはつなげていない。
百貨店(企画)	販売量の動き	・食料品は改装効果もあり順調に推移しているが、それ以外のカテゴリーは全般的に不振が続いている。
百貨店(店舗事業計画部)	来客数の動き	・9月の大型連休はプロ野球のリーグ優勝セールとも重なり、ゴールデンウィークに近い来店客数で盛り上がったが、連休明けは閑散としている。気温低下が進まないこともあり、秋冬物への反応が鈍い。
百貨店(業務担当)	お客様の様子	・秋物の立ち上がりで衣替えが例年より早く動き出している。ただ、客は慎重に吟味して買い物をする姿勢が目立ち、買物に対してはかなり慎重になっている。購買を勧めても「考えておく」と言っておかない客も多い。
スーパー(店長)	販売量の動き	・悪天候による野菜の高騰のため、販売量自体は少ないが、野菜の売上が良くなっている。
スーパー(店長)	単価の動き	・食料品を中心に値上がりして好調を維持している。今月は9月の大型連休があり比較的好調に推移している。
スーパー(店長)	来客数の動き	・食料品は、天候不順で青果が相場高となっており、前年比115%で推移している。一般食品は米が相場安となっている。また、衣料品は前年比75%で大変苦戦している。夏物衣料の処分に困っている。
スーパー(総務担当)	お客様の様子	・売上は前年を上回っているが、客の様子をみると、価格をとてども気にして買物をしている。
スーパー(経理担当)	販売量の動き	・秋冬物への移行の時期で、例年に比べ商品の動きが良い。台風などの影響で野菜が高値だが安定して売れている。
コンビニ(経営者)	お客様の様子	・衝動買いの客狙いでいろんな商品をレジ周りに置いているが、客は必要なもの以外はなかなか買おうとしない。無駄な買物はしないという態度が続いている。
コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・午前から夕方までの客数はやや伸びているが、客単価はまだ前年に届いていない。夕方から夜にかけては客数が前年より伸び悩み、客単価も低い。全体の売上としては98%を推移している。
衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・天候のせいにはしたくないが、比較的雨の日が多く、来街者数、来店者数がともに少なかった。
衣料品専門店(店員)	販売量の動き	・円安の影響で商品単価が1～2割上がっている。消費税が8%になったときはあまり影響はなかったが、今回の値上がりでは、客の購入枚数が減った。
衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・ファッション業界は気候に大きく左右される。9月は残暑が少なく、スムーズに秋の気候になったことが幸いし、秋物がすぐに動くようになった。高額商品も動いている。
乗用車販売店(総務担当)	販売量の動き	・新車販売台数が伸びない。既存の客の買換え需要が主であり、新規客が来店することはほとんどない。
その他専門店〔コーヒー豆〕(経営者)	お客様の様子	・夏のギフト物の需要は、客の1人当たり購入量、購入単価ともに前年と比べてほとんど横ばいという結果になった。

その他専門店 〔ガソリンスタンド〕(統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は8月の底値を9月も継続している。本地域は、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」に指定された施設があり、観光客が増加している。燃料油の小売価格が安値安定しているため、自動車を利用しての訪問客が多かった。しかし、高額カーケア商品の売上は前年並みとなっている。	
ドラッグストア (部長)	販売量の動き	・3か月前と同様、9月の売上も計画値を若干上回って推移している。引き続き、外国人観光客の来店が多い。9月に入り、比較的気温が低く、秋冬の季節品が好調なことも要因と考えている。	
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕(従業員)	販売量の動き	・9月の大型連休で商品の動きが良くなると期待していたが、販売のピークが最後の2日間に偏ったため、前年より売上は落ちた。休日が分散されたほうが売上は多くなる。	
その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕(統括者)	販売量の動き	・8月から発行されているプレミアム付商品券の効果が、既存店の販売量が増えている。インバウンドも好調に推移しており、売上増となった。年内はこのトレンドは維持できるのではないかと考える。	
その他小売〔ショッピングセンター〕(広報担当)	来客数の動き	・気温の低下にともない、秋物の衣料品の動きが堅調に推移している。全体では、地元プロ野球チームのリーグ優勝セールもあり前年を超える進捗である。しかし根本的な消費の動きは、相変わらず低調である。	
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・9月の大型連休の来客が予想以上だった。	
都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊部門とレストラン部門の客単価は依然上昇しているものの、上がり幅は小さい。	
都市型ホテル (副支配人)	単価の動き	・インバウンドが売上の約3割を占めるほど圧倒的なシェアとなっている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・9月は残暑も少なく低温で、タクシーの利用客数はやや減少している。9月の大型連休は昼間は観光客や催し物で良かったが、夜の繁華街は人が減った。	
タクシー運転手	お客様の様子	・月末にかけてタクシー利用は少しは増えたようであるが、初旬と中旬はかなり悪かったので、トータルで見るとあまり変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・9月の大型連休の期間はマイカー利用が多く、あまり稼働は良くなかった。それ以外の期間は、企業の利用や予約が大変良く、稼働率が上がった。	
競輪場(職員)	販売量の動き	・発売金額が横ばいの状況である。	
美容室(経営者)	販売量の動き	・もう少し景気が良くなると期待していたが、なかなか回復しない。	
美容室(経営者)	来客数の動き	・単価や販売量など、すべてが落ち込んでいる。もうすぐ消費税も上がるので、先が不安である。	
美容室(店長)	来客数の動き	・店を改装したので来客数が増えると期待したが、今までとあまり変化がない。ヘッドスパを始めてキャンペーン価格にしたため、少し売上が伸びた。	
設計事務所(代表)	来客数の動き	・客が思ったより増えていない。	
住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・9月の大型連休にイベントを開催したが、ゴールデンウィークと同じくらいの客の来場があった。	
住宅販売会社 (代表)	競争相手の様子	・新築住宅だけではなく、中古住宅を購入してリフォームする人が徐々に増えている。競合他社の動きも少しずつ活発になっているので、今後上向きになっていく可能性がある。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・客の購買力がやや落ちている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・はっきりした理由は分からないが、ここ3か月の来客数が前年よりも約2割減になっている状況である。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・プレミアム付商品券の効果で、一時は売上の微増はみられたが、夏場以降、特に年配者や主婦層は生活必需品以外への消費意欲がまったくない。生活費の切り詰めで、精一杯のようだ。
	一般小売店〔茶〕(販売・事務)	お客様の様子	・暑い日が続き、前年と比較しても来客数が減少している。客はまだ出費に慎重で、今必要なものだけを購入して「ついで買い」はしない。
	コンビニ(エリア担当)	お客様の様子	・以前は家族連れのお客が多く見られたが、最近は独身の男性や女性が多くなっている。必要最小限の買物で済ます客が多く、「ついで買い」をする人は見られなくなった。買上点数も減っている。景気は良くなっていない。

	家電量販店（総務担当）	来客数の動き	・台風以降、極端に客足が鈍ってきた。9月の大型連休も閑散とした状況が続いた。	
	高級レストラン（専務）	単価の動き	・単価が安い物しか出なくなっている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・依然として外国人観光客の需要はおう盛だが、国内からの需要は減ってきている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・今月に入ってから、がたっと売上が落ちた。中国の経済不安による株価暴落で、消費者に心理的な影響がかなり出ているようで、財布のひもが固くなっている。また夜の繁華街の動きがかなり悪くなっており、タクシー業界でも売上がマイナスとなっている。	
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約数では前年を上回る推移であったが、9月の大型連休は思ったように振るわなかった。火山の噴火の影響もあってキャンセルが多く、海外や県外の客数が前年より大幅なマイナスで、厳しい状態になっている。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・4月の介護報酬マイナス改定と8月からの一定所得者に対する2割自己負担開始に伴い、客単価が前年度から減少しており、今後も好転は見込めない。	
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今は転勤の時期であるので、生徒数はだんだん減ってきている。	
悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・すべて天候不順による悪影響である。長雨によって野菜はほとんどやられて、価格が高騰している。商品単価は上がるが、客数は減り、売上がかなり落ち込んでいる。かなり厳しい状況である。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・全体的に客の出足が鈍い。	
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電業界では、9月に入って8月の反動が出た。単価が高い大物商品の動きが、非常に悪くなっている。	
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の大型連休が大きく響いた。当店のような割烹料亭は接待での利用が多いので、企業が休みになると、かなりの痛手となる。月の3分の1が店休日のような状態で、非常に厳しかった。	
企業動向関連	—	—	—	
(九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品の原料の収穫期となった。生産が本格化し、販売も順調に推移している。
		繊維工業（営業担当）	取引先の様子	・発注が増えつつある。各取引先の業績が上向きになっているようだ。
		電気機械器具製造業（取締役）	競争相手の様子	・競合先を含め、引き合いが多くなっている。
		輸送業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・単価の高い商品の荷動きが多かった。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・仕事が増えているため、採用を積極的に進める方針の取引先が多い。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月は、原料不足で客に迷惑をかけている。取引先からの引き合いは、相変わらず強い。特に冷食メーカーは年末需要の生産に入っていることもあり、一段と要求が強い。居酒屋、スーパー関連も9月に入っても順調である。原料不足で工場生産はある程度落ちたが、仕入商品でカバーしているため、売上は計画を若干下回る程度である。	
	農林水産業（営業）	受注価格や販売価格の動き	・現状の動きに対して大きく変わる要因がない。	
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・全体の傾向は上昇機運だが、その中で一時的に停滞している状況である。今月は前年比で売上と受注件数がともに5%弱伸びているが、4～6月までは10%以上の伸びていた。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	それ以外	・受注はまあまあだった。5月よりギャラリーを開けて客の反応をみているが、9月の大型連休は客も多く、やや良い結果が出た。	
	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・例年、下期の受注と売上が増えているが、今年は例年と大差ないとみている。	
	建設業（経営者）	競争相手の様子	・客の購買意欲に変化はない。	

	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・上半期の最後である9月末の官公庁の発注は、4本と少ない。例年、今の時期、多いときは12～13本の入札があるが、今年度はない。景気が良くなっていないといけない時期ではあるが、良くなっていないのが現状である。	
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は半期の決算時期だが、荷動きが良くない。悪天候の影響で、農作物が不作だったため、段ボール類や印刷、チラシ類の荷動きがかなり悪い。	
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・特に変化はみられない。	
	通信業（経理担当）	それ以外	・景気を下支えする好材料がみえてこないどころか、足を引っ張る出来事ばかりが目立っている。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・自動車の販売が伸び悩んでいる一方、雇用・所得環境は改善してきており、百貨店・スーパーなどの売上は持ち直し傾向にある。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業は全体的に人手不足の状態が続いており、受注量が増えても人員の確保が十分にできない。そのため、設備投資、売上高のアップにはつながらず、業況の改善までには至っていない。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・株価の落ち込みが気になるが、実体面である数字の変化はない。マインド先行である。	
	経営コンサルタント	それ以外	・9月中旬に有料のセミナーを実施した。50数名という参加でセミナーとしては一応成功した。しかし、内容は7月末に経済産業省が指針を改訂した「外国公務員贈賄防止」をテーマとしたもので、少し特殊だったため、参加企業は大手、海外取引のある企業に限定された。これをもって景気が上向きとは言えない。	
	経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・免税店とその周辺のドラッグストア・コンビニエンスストアなどの売上が前年比150%以上と好調である。	
	その他サービス業【物品リース】（支社長）	取引先の様子	・ホテル業の改修、新築など情報が増加している。外国人観光客やオリンピック需要も見込んだ投資案件は今後も増加する。官公庁からマイナンバー制度向け投資案件の引き合いもあり、電力、ガスの小売完全自由化に向けての相談、案件、引き合いも増加している。	
やや悪くなっている	金融業（従業員）	それ以外	・8%という消費税のダメージがじわりじわり効いてきている。消費の状況については買い控えなどがあるようだ。	
	金融業（営業）	取引先の様子	・従来は、製造業の国内回帰など景気の回復がみてとれたが、現状では停滞の兆しがあり、雰囲気的にも現状維持が精一杯である。	
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地の主要産業である土木、建設、工事業については、例年に比べて公共工事の発注が少ない状況が続いており、経営者にとって、あまり良くない景況感が続いている。地域全体で見ても、プレミアム付商品券の特需などもほとんど効果がなく、景況感はあまり良くない。また、近年の株価の大幅な下落も心理的なマインド低下につながっている。	
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・売上をけん引していた通信販売、化粧品関連の広告出稿が振るわなかったことに加えて、旅行商品も海外、国内共に低調で全体で前年80%にも届かない状況である。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	それ以外	・今月は台風の被害で、大変な状況になった。また、火山の噴火により観光客が減少しており、ホテル、タクシー、バスなどがキャンセルになって、かなり苦勞しているという話を聞いている。	
	その他サービス業【設計事務所】（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の委託でまちづくりの調査や計画、設計などを行うコンサルタント業務に携わっているのだが、市町村がその予算を確保していない状況である。国の交付金による地方創生の総合戦略策定に関する業務は7～8月までに発注されたが、その後、市町村の独自予算による業務は、福岡県内では1件だけであった。	
悪くなっている	その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格が20%ほど下落し、仕入価格を大幅に下回っている。大きな要因は原油の続落にある。	
雇用関連	良く なっている	-	-	
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求職者が減っている。それだけ仕事を選べる状況になってきた。

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・当地区は引き続き中国からの観光船の客が多く、ホテルや商業施設などの買物客が多い状況が続いている。こうした状況がしばらく続きそうだ。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・6月以降、前年同期比で新規求人数が大幅に増え、新規求職者数は減少傾向にあることから、新規求人倍率、有効求人倍率共に大きく前年を上回っている。これは、景気が上向いて業績が好調であることを反映している。企業が人材確保に力を入れていることの表れである。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比1.9%の増加である。主要産業別にみると、製造業、運輸業、郵便業、卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業、サービス業で増加し、建設業、医療、福祉で減少した。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年5～7月までの3か月と今年5～7月の3か月を比べると、今年が約500件増えている。一方、新規就職者も前年比で300人程度の増である。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人数が増えず落ち着いている。求職者からの問い合わせなども減っており、動きがあまりない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼数が伸び悩んでいる。今期の初めは「直接雇用での採用が難航しているので、派遣を依頼したい」という案件が多かったが、ここ2～3か月はそういった案件が減り、繁忙期要員の依頼が増加傾向にある。企業が景気拡大を見込んで直接雇用に向いていたが、ここ数か月の景気動向から、直接雇用ではなく派遣で費用を流動化させようとしている実感がある。
	人材派遣会社（営業）	雇用形態の様子	・派遣法改正の影響もあるが、直接雇用への比率は上昇している。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価が下落傾向になっている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・中心市街地への人出や観光客数の多さをみても、景気は減退してない。3か月前と比べてそれほど変わらない。
	職業安定所（職業紹介）	求人数の動き	・新規求人数及び有効求人数がわずかに減少している。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・労働者派遣法改正によるプラス効果などはまったくみえていない。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・相変わらず、企業の求人意欲はおう盛である。新卒に関しては、追加採用求人が出てきている。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人件数が前年を下回って推移している。景気が良くて人手不足の場合は積極的に求人をつすが、昨今は景気が悪いうえ、人手も不足しているので、求人告知なども消極的になっているとみている。
悪くなっている	-	-	-

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	良くなる	商店街（代表者）	・年賀状など印刷物部門が増えると予測できる。乗客数も10月より増える傾向があるため、販売量増も見込める。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・これから南九州は涼しくなり、いろんな作物の出荷が増えてくる。商品的にも価格的にも安定してくる。涼しさにより客の需要も伸びるので、今の状況よりは良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・客が入りやすいように店を改装するので、景気が良くなる。
		通信会社（営業）	・年末需要への期待がある。また、今後の消費税増税が消費に対する拍車を若干押し上げるかたちになる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・9月の大型連休での人の動きをみれば、海外旅行や国内旅行など、個人の楽しみにお金を使い始めているので、景気はやや上昇傾向にある。
		商店街（代表者）	・当地域へは友人同士、家族連れなどの旅行客が増えている状況である。今後、高額商品を扱っている店には少しずつプレミアム付商品券の影響が出てくる。
		商店街（代表者）	・地方においては上向きになるような材料がまったく見当たらない。
		百貨店（営業担当）	・バス用品やインテリア、家電商品など自家需要商品への関心と購買が回復してきた。また、高級雑貨や貴金属、毛皮などが依然好調で、ホテルでの催事も来客者数、買上金額ともに好成績となった。婦人服も同傾向で、肌着、雑貨、プラトポルテが伸びた。また、自社カードの新規入会が当月も好調で、目標を大きく上回り、今後の利用が期待できる。また、友の会と自社カードのダブル募集の推進を強化している。
		百貨店（営業担当）	・ファッションの動きが例年以上に大きく、服の売上に影響している。これまで服を買わず、タンスにある手持ちの服を組み合わせでコーディネートしていた層も最新の服を買おうとし、買換え需要が高まってきている。
		百貨店（販売促進担当）	・ここ最近のプレミアム付商品券の販売により、購買意欲が高まることに期待している。
		百貨店（経営企画担当）	・直近では、台風の直撃が影響したものの、9月の大型連休は天候にも恵まれ、売上高も前年を上回る状況で推移している。
		スーパー（店長）	・3か月前に比べて、売上が安定して増えている。先行きも同じ傾向で推移すると予測する。
		スーパー（統括者）	・上半期の業績が良好で、先行きが悪くなる要素があまりない。
		コンビニ（販売促進担当）	・食品売場をみると価格表示が税抜きで、しかも低価格の商品が増えている。購買意欲が高まっているようだ。8%の消費税に慣れてきたのが、現状である。
		衣料品専門店（チーフ）	・今の来客者の動きをみると、外国人観光客の来店が若干増えている。これからの時期は中国の大型連休である国庆节で、中国人観光客の来店が増え、売上も伸びてくる。冬場にかけてさらに客数も増加する見込みである。
		家電量販店（店員）	・6月以降、売上が天候に左右されており、6月は落ち込んだが、8月にはぐっと盛り返したというように山と谷を繰り返す状態である。9月の落ち込みが8月の反動であれば、今後は9月の反動増が来るので、やや良くなると考えている。
		家電量販店（従業員）	・気温が下がってくると暖房器具の需要が増える。
		乗用車販売店（総務担当）	・待望の新型車が年末に発売開始となる。商品力の高い新型車なので来店客数が増加し、新車販売台数増加に弾みがつく。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・コーヒーの場合、気温に非常に左右される。2～3か月先は気候も大分寒くなり、暖かい飲み物の需要が増える。今後の売上に期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	・10月末から始まる国民文化祭で多数の県外から客が見込まれ、商品の販売量が増える。
高級レストラン（専務）	・飲食業は2月と9月が年内で一番悪い月である。今後、10月～年末にかけて宴会が増えてくるので、少しは良くなると考えている。		
一般レストラン（経営者）	・今後の予約も入っており、悪くはならない。		
スナック（経営者）	・街には中国からの爆買い客が多く見受けられ、活況を呈している。また以前に比べ高額商品が良く出るようになった。		
観光型ホテル（スタッフ）	・10～11月と秋の行楽シーズンで宿泊予約も順調に入っている。世界産業遺産登録が後押ししている。		

観光型ホテル（専務）	・客の予約がやや増え始めた。
都市型ホテル（販売担当）	・予想では宿泊、宴会、レストラン利用は増える傾向である。ブライダルはマイナスである。
旅行代理店（企画）	・海外からのインバウンド需要の取り込みが期待できる。
通信会社（営業担当）	・当該地域にある施設の世界遺産への登録が決定し、にわかには業界全体が活性化している。
ゴルフ場（従業員）	・来月、再来月と予約数は非常に良い状態で推移しており、前年を1割以上も上回っている。特に県外客が大分増えているので、非常に期待が持てる。あとは予約客が実際にどれだけ来場するのが重要だ。プレー料金だけでなく、食事やお土産などで客単価を上げていく。
美容室（店長）	・朝夕が涼しくなって外出する機会が増え、美容室利用がやや多くなるので、今月より良くなる。
サービスの動向を把握できる者	・取引先では仕事量が増加し、受注量が増加している。
変わらない	
商店街（代表者）	・先行き不透明で、良くなるのか悪くなるのか、予測がつかない。
商店街（代表者）	・消費者の所得が増える気配がない。給与が上がったという話は大手企業と公務員だけであり、民間の零細企業では苦戦している。税金が上がったので、消費に回せるお金はますます減っている。
商店街（代表者）	・いろんな集客効果がまだしばらく持続するが、若干年末にかけては下がっていく。
商店街（代表者）	・今の状況が続くなら、3か月後もあまり目立った変化はない。
一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・勝負時である年末に向けて忙しくなるので、効率よく仕事をしていきたい。今年はふぐの原価が高くなりそうなので、また利幅が減りそうだ。
一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・株価が乱高下し、今後景気状況が不安定だ。販売店の売上は景気状況に左右されるので、今から年末に向けて少しでも景気が安定してほしい。
百貨店（営業統括）	・株価の動きや海外情勢があまり良くない状況で、景気に対する期待感も少ない。
百貨店（売場担当）	・入店客数は3か月連続で前年比をクリアしている。非食品が97.5%、食品が105.4%という客単価であった。11月についても物産展催事でかなり伸びてくるので、おそらく前年をクリアする。インバウンドについては相変わらず良く、常に売上が前年比の200%以上という状況が続いている。
百貨店（企画）	・秋以降、需要が上向いてくると想定していたが、消費者の生活防衛的な購買心理は予想以上に根深く、改善の兆しがみえてこない。
百貨店（店舗事業計画部）	・前年はプロ野球の優勝セールやインバウンドの拡大など特殊要因で売上を大きく伸ばしており、今年は苦戦が見込まれる。秋冬ファッションのトレンドアイテムが出始めており、また食品・化粧品が堅調なので、そこで下支えを図りたいが、難しい状況である。
百貨店（業務担当）	・客の慎重な購買行動は変わらない。必要なものを買ったら、その後はしばらく購買がない。特にミセス層の反応が弱い。
スーパー（店長）	・値上がりした商品が結構あるので、販売数がなかなか伸びてこない。
スーパー（店長）	・競合店の出店などの計画もあり、今後ますます競争が厳しくなると予想される。
スーパー（店長）	・食料品は堅調だが、衣料品や住関連が非常に苦戦しているので、今後も変わらない。
スーパー（店長）	・食料品は相場高が続くので、前年比115%ぐらいで推移していく。来年1月に、競合店であるドラッグストアが半径1キロ圏内に開店予定である。そのため1月以降はかなり苦戦しそうだ。衣料品は秋物の動きも鈍いので、冬物商材を早めに入荷する。
スーパー（総務担当）	・顧客の商品の価格に対する反応はシビアで、なかなか客単価がアップしない。
スーパー（経理担当）	・春先から比較的安定した消費が続いており、大きく変化する要因は見当たらない。
コンビニ（経営者）	・大企業では給与が上がったとニュースなどで聞くが、一般消費者の大半である中小企業に勤めている人については、なかなか良い話は聞かない。消費者の態度にも反映している。
コンビニ（エリア担当）	・10月からは一部の火災保険料などが値上がりするそうで、家計も一段と厳しさが増してくるのではないかと危惧している。

コンビニ (エリア担当・店長)	・年末商戦前で今のところは年末にかけての買い控えが続く。来月、再来月になれば少しは今月より上向くが、見込みは立っていない。
衣料品専門店 (店長)	・2~3か月先も景気はそのまま変わらない。秋冬物の婦人服の売行きが良くなるか心配である。
衣料品専門店 (店長)	・プレミアム付商品券の効果はほとんどなくなった。インターネット上でふるさと名物販売事業に参加し、出展商品の割引販売をしているが、こちらも売れていない。
衣料品専門店 (店員)	・秋冬に購入するアイテムを決めている客が多く、無駄遣いはしないようにしている。
衣料品専門店 (総務担当)	・今後、景気が良くなるとは考えていない。ただ、新しい提案や良い提案ができさえすれば、それに客が反応してくる道筋はやや出来つつある。
衣料品専門店 (取締役)	・3か月先はセールの時期である。気候で売上が大きく左右されるが、今年は暖冬であるようだ。コートやセーターなど、単価が高い製品がどこまで動くかで、売上が変わってくる。景気が良くなるという材料はなく、ただただ企業努力と毎日の積み重ねで売上が上がるように現場で頑張るしかない。経済政策をみても、良くなる材料はない。
家電量販店 (店員)	・プレミアム付商品券はかなり良い影響があったが、その効果も終わってしまった。これから売れるものがあるかという点で非常に難しい状況である。ただ、急に寒くなってきたので、暖房器具関係に期待している。極端な暑さや寒さが家電業界を潤すので、もっと寒くなってほしい。
家電量販店 (総務担当)	・冬商戦までの端境期に当たるので、期待できない。
家電量販店 (広報・IR担当)	・客数、販売量ともに前年並みの状態で特別に良くなる気配はない。
住関連専門店 (経営者)	・今月は前年同月と比べて良かったが、前月8月は同年同期に比べて良くはなく、この先も今月は一時的なもので、先行き良好とは言い難い。
住関連専門店 (店長)	・今年は台風などの被害が多く、マイナスの出費が多くなっている。被害箇所の補修という需要で販売店の売上は上昇しているが、それは決して景気が良いというわけではない。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	・燃料油の小売価格が9月並みで推移するようであれば、観光客の増加も期待される。今後の仕入価格は不透明なところもあり、先は見通せない。当地域は世界遺産があるので、観光客の消費に期待する。
ドラッグストア (部長)	・一時的な浮き沈みはあるものの、ここ数か月は安定した状況が続いている。外国人観光客の動向など、不確定要素が多いことは懸念している。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	・施設間の格差は、インバウンドを呼び込んでいるか否かである。プレミアム付商品券も使用期限が年内で、引き続きの効果も期待している。
その他小売 [ショッピングセンター] (広報担当)	・特に環境が良くなる要素はないが、消費を喚起させるイベント、例えば地元プロ野球チームの日本一があれば状況は変わる。
高級レストラン (経営者)	・10月に入ると少しは改善するが、良くなることも想像つかないのでどちらとも言えない。これから涼しくなって鍋物の注文が増えると良くなっていく。
高級レストラン (支配人)	・10~11月は消費が滞る。
一般レストラン (スタッフ)	・変わる要素がない。
居酒屋 (経営者)	・年々、忘年会や新年会などの回数が減ってきているようだ。
観光ホテル (総務)	・当ホテルの3か月先の売上予測によると、変わらない。
都市型ホテル (スタッフ)	・ここしばらくは消費意欲がおう盛な外国人観光客に、売上は支えられる。
都市型ホテル (スタッフ)	・予約状況が芳しくない状況ではあるが、個人客の動きは徐々に戻りつつある。
都市型ホテル (副支配人)	・11~12月の予約が先行して入っている。特にコンサート、MICE関係の客が非常に多い。
タクシー運転手	・中国の景気悪化などの影響で観光客は多少減少するかもしれないが、現状維持はできそうだ。
タクシー運転手	・金融当局が何らかの対策を打ち出さない限り、今後景気が持ち直すことはない。今年いっぱいはおそらく横ばいになりそうだ。
タクシー運転手	・今年はゴルフ客が少ない。また、観光客もレンタカーの利用が多い。

	タクシー運転手	・予約状況は良いが、9月に入って客の動きが非常に良くない。特に夜の客の動きが良くない。	
	競輪場（職員）	・業界の販売額に増減がなく、現状維持の状況である。	
	競馬場（職員）	・変化する根拠があまりないため、依然として好調をキープできると考えられる。	
	美容室（経営者）	・通常、これから少しずつおしゃれシーズンに入るので、景気は回復していくのだが、今の状況を見ると、今後もあまり変わらないようだ。	
	理容室（経営者）	・これから涼しくなると、髪を切らなくてもうっとうしくなくなるので、客の来店日数が伸びてしまい、どうしても来客数が減る。12月にならないと良くはならない。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護報酬改定の影響が大きく、介護業界のなかでは事業所を閉鎖するところも増加しており、今後もこの動きは続くことが想定される。	
	設計事務所（所長）	・大体2～3か月後に結果が出る仕事である。今の状況を見ると、2～3か月先も変わらない。	
	住宅販売会社（従業員）	・イベント来場客がこれから2～3か月後の客になることを考えると現時点では変わらない状況が続く。	
	住宅販売会社（従業員）	・今まで株価が順調に推移していたのが、日経平均が1万7千円を割ったので、中国の景気低迷などで世界的にも景気はある程度伸びが鈍化しつつある。また、原材料費が円高や為替の関係で高くなっているため、景気は非常に厳しい状況にある。消費も伸びていないので、あまり良くならない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・農家の台風被害は、小売店にも大きなダメージとなる。各小売店の売上が落ちると、それらの店のオーナーも買い控えてしまう。また事業者の消費税の納税額が大きく、従業員の給与を下げなければ支払ができなくなるレベルである。そうすると、その従業員の家族も消費を控えることになり、景気への悪影響が大きい。所得税、県市民税、厚生年金と生活以外の支払が大きく負担となっている。高齢者の介護などによる金銭面の負担もあり、大変な時代である。	
	百貨店（営業担当）	・株価が1万7千円を切って、先行きが不透明となっているので、富裕層の動きが今後鈍くなる。さらに今まで売上を支えていたインバウンドについても、やや陰りが見え始めてきているので、2～3か月先は厳しくなる。	
	スーパー（経営者）	・中国のバブル崩壊が本格的になってきたため、やや悪くなる。	
	コンビニ（店長）	・世界の経済環境が沈滞化している。	
	その他専門店〔書籍〕（代表）	・消費税増税前の、消費の切り詰めが定着してしまった。	
	旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休の反動もあり、海外旅行が前年割れとなった。また、景気減速の影響か、中国からのクルーズ船のバス手配に、予約キャンセルが出るようになった。	
	美容室（経営者）	・先行き不安なことが多い。この先の老後の心配や生活が成り立つのかという不安がある。	
	音楽教室（管理担当）	・これから受験期に突入するので、お稽古事がだんだん控えられていく。	
	悪くなる	—	
	良くなる	—	
企業動向関連 (九州)	やや良くなる	農林水産業（経営者）	・10～11月は原料事情が元に戻り、工場生産も安定してくる。冷食メーカーなどの年末需要の生産と重なり、引き合いは一段と強くなる。スーパーや居酒屋関連も行楽シーズンに入るためかなり期待できる。11～12月に入ると鳥インフルエンザのシーズンになるのが懸念だ。国内での発生がないことを祈るのみである。
		繊維工業（営業担当）	・受注のピークを迎える時期なので、悪くなることはない。発注に対して、多少は断らなければならないかもしれない。
		家具製造業（従業員）	・ホテルは外国人観光客の増加にともない、客室不足となっている。東京オリンピックまでの建設ラッシュと重なって、関東だけでなく、大阪や名古屋、福岡などの地方都市でもホテルや商業施設などの設備投資がおう盛になっている。
		鉄鋼業（経営者）	・足元の受注量や販売量は、相変わらず低迷している。納入先の鉄筋加工業者も加工量が減っているが、手持ち物件が少なく、メーカーからの出荷量増につながっていかない状態である。建築物として分譲マンションの着工戸数が増えているので、今後の受注量増に期待している。
		金属製品製造業（事業統括）	・東京地区のオリンピック関連案件の増加が期待できると考えている。
		電気機械器具製造業（取締役）	・自社の受注状況からやや良くなる。

建設業（従業員）	・先月から受注も順調にできている。見積案件も多く出ている。
輸送業（総務担当）	・株価などの悪影響が懸念されるが、現状は例年と比較しても物量・単価が上昇しているため、好況が継続されると見込まれる。
通信業（経理担当）	・悪い材料は出尽くしそうなところにきている。政府も安全保障法制関連の政局が落ち着けば、次はアベノミクスに重点が置かれることで景気にプラスとなる。
金融業（得意先担当）	・例年に比べて公共工事の発注が非常に少ないといった状況が続いていたが、ここに来てようやく公共工事の発注が始まっている。安堵している取引先が多い。今後はわずかであるが改善していく方向である。
不動産業（従業員）	・マンション販売が好調で各物件即完売となっている。
経営コンサルタント（社員）	・今後、取引先の店舗拡大の傾向があり、また中国人観光客が増える傾向がある。
経営コンサルタント（代表取締役）	・台風の被害がかなりあったので、建築業界が非常に忙しくなっているようだ。見積さえ間に合わない状況が続いている。しばらくはかなりの受注が見込めるので、少しは良くなる。
変わらない	
農林水産業（営業）	・現状から大きく変わる要因がない。
食品製造業（経営者）	・販売は順調に推移する。しかし原料に関しては、梅雨から夏にかけての天候不良による不作為が予想されている。
出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・受注予定をみると、現時点で確定している件数が少なく、また自治体は、主に年度末の発注に向けた調整の時期に入るため、変わらない。
一般機械器具製造業（経営者）	・ユーザーの担当者の意向をみると、なかなか先のことまでは括めていない。確実な数字が出てこないと言えないが、今月とはあまり変わらないようだ。
一般機械器具製造業（経営者）	・客の声などを聞くかぎりでは、2～3か月後は多少持ち直すところもあるが、現状と変わらないところもあり総合的にはあまり変化はない。
精密機械器具製造業（従業員）	・2～3か月前から、受注先からの委託品受注量がかかり落ち込んでいる。これは中国市場の状況の悪化が原因である。今後の生産数もまだ分からない状態にある。
建設業（経営者）	・年末にかけて景気は良くなるかと判断している。
輸送業（従業員）	・同業者の話も聞いても、荷動きは非常に悪い。当社は倉庫業なので貨物が動かず在庫が滞留しているのは収益に結びつくが、荷動きがないのは全体的には良くない状況である。
輸送業（総務）	・あまり変化はない。
通信業（職員）	・年内はメガソーラー工事の受注が堅調に推移すると予想される。
金融業（従業員）	・住宅投資や外食産業のほか、百貨店などでは持ち直しの動きがみられるが、自動車関連企業の回復は遅れ気味である。中国経済の先行き不安もあり、今後については、やや慎重な見方が増加してきている。
金融業（営業担当）	・中小企業全般において、受注量や売上高は増加傾向にあるものの、その仕事をこなすまでの人員確保が実現できていない状況である。結果、外注や人材派遣会社への依存度が高く、収益面を圧迫する状況が続く見込みである。
金融業（調査担当）	・設備投資資金のニーズは堅調に推移している。運転資金のニーズは変化がない。
金融業（営業）	・景気は停滞している。製造業の受注は堅調に推移しているが、収益を上げるけん引企業、業種は見当たらない。当面現状が続く可能性が高い。
新聞社（広告）（担当者）	・国内旅行商品は復活の兆しがみえてきたが通信販売、化粧品は頭打ちの状況が続く。通年で前年比90%台が現実的な見通しであり、新聞広告には大変厳しい状況である。
広告代理店（従業員）	・9月の新聞折込枚数は前年同月比99%と微減した。この数か月、前年比は大きく落ち込まない状態が続いているが、消費が活性化する気配はない。9月に入り株価の低迷や円高など、経済環境は芳しくない。安倍首相の再選が決まり経済政策を重視するそうだが、消費活動にプラスになる施策が望まれる。
広告代理店（従業員）	・受注量はここ半期前年をクリアしていない。
経営コンサルタント	・現在、担当している製造・小売業の業績をみると売上が低減傾向にあり、将来の景気が良くはならない。
経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先に投資計画を聞くと、引き続き人材投資・設備投資を積極的に推進していく方針である会社が多い。
その他サービス業【物産リリース】（支社長）	・顧客から数か月先の不安材料は聞かえてこない。新規事業の創造や育成に注力しようとする企業が多い。また、後継者問題や事業の整理、事業譲渡の話聞くようになった。

やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・食料品業界だが、消費税の軽減税率の仕組みが気になる。今後、景気にも影響しかねない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・原材料、特に陶土が値上げしているが、商品価格に転嫁できない。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・生産計画に若干の下方修正が入ったため、新型車の投入効果も計画ほどではない。	
	建設業（社員）	・上半期の残工事が発注されれば少しは良くなるが、発注予定をみても第3四半期、第4四半期は全く期待ができない。早めに大型の補正予算が計上されないと、地方の業者は非常に厳しい。	
	金融業（従業員）	・冬のボーナスの期待感も今のところやや薄いので、景気は下降傾向になる。	
悪くなる	その他製造業（産業廃物処理業）	・仕入が減っている。商品を売りたいくても、販売価格の相場が安く利益が出ないため、身動きが取れない状態である。	
	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	・市町村のまちづくりに関する委託事業は、9月の補正予算でも案件が少ない。新たに入札などかけられる事業は減っていることから、新規業務の受注が厳しくなることが予測される。新たな計画や設計を行うプロジェクトなども減少しており、景気が悪くなることが予想される。	
雇用 関連 (九州)	良くなる	-	
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・求人難は中小企業にも顕著に影響が出る。会社の存続は人材にあることから淘汰される企業も出てくる。従来どおりの経営を続け変革しない会社は、存続できない時代になる。
		人材派遣会社（社員）	・お歳暮時期になるので注文は増える。また、短期の募集や単発の募集を希望する問い合わせが増える時期でもある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・福岡、九州地区はアジアからの観光客が堅調で、平日、週末を問わず商業施設や観光施設は観光客でにぎわっている。世界的な経済状況が変わらない限り、しばらくはこうした状況が続く。
	職業安定所（職員）	・建設業、医療・福祉以外の業種で求人が増加していること、事業所訪問時の聴取内容から判断すると、人手不足感が高まっている。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣法改正により企業からの派遣依頼は増加見込みではあるが、年度初めほどの依頼数の増加は見込めない。	
	人材派遣会社（営業）	・地方での消費へは結び付いていない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・内閣支持率が下がっているため、安定しない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新聞紙上での求人状況は、これからも大きな流れは変わらない。当地域においては秋はイベントも多く、市街地、観光地などのにぎわいも好調さを維持する。	
	職業安定所（職員）	・中国がきっかけになって世界経済が後退するのではないかという危惧が、払しょくされていない。企業には米国の大手金融機関の破たんのような世界的な経済停滞への不安があるので、正社員雇用が伸びない状況である。現在、新規求人数は順調に推移しているものの、一旦、不測の事態が生じた場合は求人数が減少方向に動くことが想定される。	
	職業安定所（職員）	・新規求人の大幅な増加は見込めない。月間有効求人倍率が1～3月は1倍を超えたが、5～6月は0.8倍台、7月は0.9倍台になっている。	
	職業安定所（職業紹介）	・求人数について前年比では増加傾向にあるが、前月比では横ばいか微減が続く。	
	民間職業紹介機関（支店長）	・求人数が全く増加しない。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・今の状況のままでいくと現状維持が続くが、不安定要因も大きく、景気の減速によっては、企業の採用活動が今より抑制される可能性がある。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	・中国、欧州での株価の動きが不安定である。今後、数か月で我が国の景気にどのような影響があるか、見通しは困難である。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・諸物価が高騰してきているが、中小企業で働く人たちの賃金は上がってないようなので、家計への負担が大きい。9月の大型連休が好天に恵まれただけに今後の動きが心配される。	
悪くなる		○ ○	